



日本子ども虐待防止学会 第21回学術集会にいがた大会 参加のご報告

2015年11月20日(金)・21日(土)

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。さてキャプネット・みやぎでは、昨年日本子ども虐待防止学会第21回学術集会にいがた大会にパネル出展するとともに、村松代表ほか8名の運営委員及び相談員が参加してまいりました。ここに受講内容の一部をご報告いたします。

第21回日本子ども虐待防止学会 新潟大会報告

代表 村松敦子

- 1 長谷川真理子教授の特別講演「親の配偶戦略と子どもの虐待」を途中から聞くことが出来た。長谷川教授は人類学者で、専門は行動生態学。進化生物学の観点から人間の行動性向を研究しており、かつて「オスとメス、性の不思議」とか「進化をめぐる4つの何故」という新書を読んでいたの、教授の目には「人間の虐待行動」は如何映るのであろうと興味津々であった。
- 2 教授のお話は「次世代に何匹の子どもを残せるかが自然淘汰による進化を推し進める。ゴリラを始めとする霊長類では群れのオスが変わると、新しいオスは前のオスの受精によってできた乳児を殺す。これは自分が群れから追い出される前に自分の子どもをより多く残す為である。また、ネズミやゲダラヒヒなどではブルース効果といって、妊娠中のメスが父親以外のオスの臭いを嗅ぐと流産するが、それは父親以外のオスにより子殺しされる確率が高いため繁殖努力をやめるということである。現在の子育て環境が良好ではなく、将来のチャンスに賭けたほうが有利な場合には、親自身による子殺しや遺棄がありうる」とし、子殺しと子の遺棄は動物界では広く見られる行動という前提から始まり、ヒトへと話が進んだ。
ヒトは、生涯に複数回繁殖が可能な種である。また、子育てには大変な時間とエネルギーがかかり、メスのみで子育ては出来ない。子育てに相応しい物理的環境(資源)と皆の協力という社会的環境が整うことが必要な共同繁殖の動物である。
子育ては母親のみでは不可能で、妊娠出産をすれば必ず「母性本能」が働いて赤ん坊を可愛がるということではない。母親にとって条件の良くない環境にあるとき、子育てを放棄するという選択は、進化的な戦略としてありうる。

実際にも多くの社会において、1) 父親が不明もしくは不在、2) 出産間隔が短すぎる、3) 社会的に認められない関係の子どもである、4) 飢餓の最中といった理由で嬰兒殺が許容されてきた。日本でも、①水子地蔵、②こけし(←子消し)、③戦前の日本では女児の死亡が多い(男性の方が死にやすいことから女児へのネグレクトを疑わせる)という事象から、子殺し、遺棄があった。

その後現代日本社会における子どもの虐待へと話が進み、子育ての条件が悪く子育てのコストが大きすぎると親が感じるときに虐待が起こりやすくなると仮定し、下位仮説として1) 親の年齢が若いほど虐待は起こりやすい、2) 片親家庭のほうが起こりやすい、3) 子の数が多いほど起こりやすい、4) 義理関係の子に対して起こりやすい、5) 経済的困難の家庭のほうが起こりやすい、6) 社会的に十分なサポートネットワークのない家庭のほうが起こりやすい、7) 母親にあたらしいパートナーができたあとに起こりやすい を定立し、2007年から2010年の児童虐待事件を材料として分析を行ったところ仮説は概ね実証されたとのことであった。

結論として、ヒトは現在の子育てがうまくいくかどうかの情報に敏感であり、うまくいかない時には子育てをやめるスイッチが入る。それに対するサポートとしては、働く母のためのオプションではなく、子育ては大変という事を前提にした皆がサポートをするオプションでなければならない。これが生物学的結論であると、話をまとめられた。

3 教授の話を聞きながら、子育てのフォローの抜本的変更が求められていると感じた。

日本では、従前の大家族から戦後核家族となり、母親が育児の担当者として位置づけられ(性別役割分担)、母親ならば育児で出来て当たり前という幻想の下、保育所は親が就業などで保育に支障があるときのための制度となっている。他方、スエーデンなどの北欧では子どものための保育制度で、保育所は親の就業に関わらず利用可能である。

子どものための保育制度になり、低額もしくはただで、保育所を利用できるならば、育児不安や孤立化・密室化による虐待は防止でき、虐待はかなり減少するものと思われる。

キャプネットは、親の孤立を解くことを目指し、親に対して電話相談を通じ、子育てについて相談していい、SOSを発していい、相談する力があるということはいいことなのだというメッセージを発信して来ました。

相談場所としては、公共団体はじめ民間も含めれば、かなりの数に上ります。しかしながら、児童相談所に寄せられる全国の虐待相談件数は年々うなぎのぼりで8万件を越し、虐待報道も毎日のようにあります。従前の対応は抜本的な対応ではなかったといわざるを得ません。今後は、虐待防止という観点から、子どものための保育制度を国や自治体に要求することが必要だと思います。

教授は、子どもが泣くことということは、共同繁殖の心臓を持っているからで、誰か自分をケアしてくれる人を探して泣くのであり、それは親の子育てがうまくいってないというサインである。母親は、新しいパートナーが、連れ子を可愛がらない時には子どもの対してかなり残酷になりうるとも話しておられました。

子どもが固体として生き延びるために泣き、母親は種の保存という観点から自分の子どもに対して残酷になりうるという人間の動物としての側面を、きちんと見据え、虐待環境にある子どもを効果的に救出する方策を行うことが必要です。少子化も踏まえるならば、政府や公共団体がすべきことは明らかと思うのですが、皆さんいかがでしょうか？

新潟に到着したのは学会当日の昼、あいにくの冷たい雨のお出迎えでした。

会場である「朱鷺メッセ」に入ると中は外の冷たい雨とは裏腹、熱気がみなぎり行きかう人の表情は「同じ思いを持った同志」を感じさせられる雰囲気でした。

どこかで「こんにちは」「しばらく、元気」と声を掛け合う光景。「ここにも人のつながりがあり、世界中に広がる空の下から今日はみんなここに集っているんだな」と温かい気持ちになりました。

特別講演は、総合研究大学院大学副学長長谷川真理子氏が「親の配偶戦略と子どもの虐待」と題し、行動生物学的視点から虐待について講演されました。

人間の共同社会では子どもが泣けば誰かが抱き寄せ誰かがあやし誰かが面倒を見てくれるという「支えあう」という伝統的な文化があった。動物の世界では泣くことにより食べられてしまう。親は競争という社会の中で懸命に生きる術を身に着け必死に子どもをそして自分を守り生きていく、という「守る」という関係性はどこの社会にも共通したものであること。人間の社会が進化し核家族化し抱える問題も多様化し特に親の年齢の若年化、家庭内の人間関係、家族の形態、経済的問題など子どもを取り巻く環境の状況は虐待を引き起こす要因でありサポート体制がなければ「虐待」は起こりうる可能性が高いということでした。

人間社会の変容によりサポートを必要としている人へのサポートとその体制について、改めて考える機会になりました。

「DV被害母子への地域連携支援」のシンポジウムは、母子への支援から母子分離を経て母子統合までの機関の関わりと連携についての事例でした。

DV被害者には配偶者暴力相談支援センターや一時保護所など自分自身のことを考えるための「安全な場所」と「安心できる信頼できる人の存在」が必要であり、特に心理的ケアが必要であること。またDVを見せることが「虐待である」こと、DVがもたらす「子どもへの影響」について伝え、子どもの自傷行為や暴力的行為などについて一緒に考えることが大事で必要な支援であること。DVから逃れ生活が始まると子どもの暴力による再演が始まり、家庭内暴力などで被害者家族が精神不安定になり生活自体が継続できず家族分離に至った事例について話を聞きました。子どもへの支援として「安全安心感のある場所で年齢に合わせて課題を説明していくこと」。親に対しての支援として「子どもに説明することの必要性」と「暴力の再演はDV、虐待によるものであること」を一緒に考え、主体的回復のためには背景に寄り添い心理的サポートしていくことが必要である、ということでした。

親子の安定した生活と再構築のためには「地域連携支援」としての機関の情報の共有と資源の活用が必要であり、資源をどうつないでいくかという連携の在り方、暴力の再演防止のためには「声なき声」にこそ地域がどのように連携していくか、という常に問われている課題を改めて考える機会となりました。

今回のテーマは「つながりへのチャレンジ」でした。どこかにつながっている、つながりたくてもつながれない。どうしていいかわからない。そんな声はどこかでつぶやかれている。私たちはそうした声に耳を傾け寄り添うことが「つながりへの一歩」であり「始まり」ではないかはないかと思いました。そのつながりを「輪」とするためのエッセンスを振りかけてもらったような心地よさを感じながら研修を終えました。

最終日の夕日が信濃川を照らし水面がキラキラ輝き、研修を終えた気持ちを後押ししてくれているかのようでした。

第21回 子ども虐待防止学術集会は、テーマを「つながりへのチャレンジ」として、初冬の新潟で行われた。

「つながり」というテーマは、虐待を受けている子たちはもちろん、育児困難な親、家族、そしてそれに関わるいろいろな立場の人達との「つながり」、過去から現在、未来への「つながり」、そしていろいろな機関との「つながり」など、この大会でその「つながり」が期待されるプログラムがあった。

特別講演の総合研究大学院の長谷川真理子先生は「親の配偶戦略と子どもの虐待」と題され、人間行動生態学的アプローチからの分析を話された。

動物の世界では、子殺しをするのは親以外の固体で、親にとっての競争相手で利害の対立で生き残るためにも子殺しの行動がある。

しかし、現代日本社会での子どもの虐待の直接のきっかけとされるものは、2歳未満では「泣き止まない」2歳以上では「言うことをきかない」「なつかない」「口答えをする」などが大きな要因だけれど、ヒトの赤ん坊の行動に対しての進化的な疑問を話され、子どもの虐待を防止する為に、どのような社会環境が必要なんだろうかと投げかけられた。

午後の講演は「ひとり親家庭の貧困と子育て」を立教大学コミュニティ福祉学部の湯澤直美先生がひとり親家庭の相対的貧困率の高さに注目し、そこにおける死亡率の多さも説明された。

一番気になったのは情報弱者という言葉だった。先日も宮城県内で親子心中があったばかり、地域とつながり、行政とつながって情報さえ得られていたら、未然に防げたのではと考えた。子どもが「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」を保証する社会環境の整備は急務だという湯澤先生の言葉が心に残った。

2日目の分科会は性的問題行動を行った男子への支援と題し、児相と自立支援の立場からの報告を聞いた。性的加害行動をとった子どもに対してどのようなアセスメントが必要で、施設に入所した場合どういったアフターケアが有効か、まだまだみえないことも多々ある中、児相、自立支援施設での実践が話された。

模索する中で、「何が対象児童を性的加害行動へと駆り立てたのか」その背景には被害体験や生き辛さなどの要因があり、加害行為の性質上周囲からの嫌悪感で、家族や地域から受け入れられない事態が多い。

児相は治療的プログラムを軸とし、性教育と語りを増やし、人生の目標として、生活上の細かい出来事を拾い、対人関係を考え、生活者としての成長を目指し途切れる事のない支援をするとの報告だった。

偶然お会いした森田ゆり先生から薦められた情緒障害短期治療施設の子どもたちとの「ヨガ」の実演では子どもたちによるヨガパフォーマンスを見た後、私たちに見学者も子どもたちのリードで体験する事が出来た。

呼吸法訓練で注意力を高めるという古代からのヨガが今後、全国の施設にヨガのプロジェクトを作ることによって、大きな効果をめざし練習しているということだった。

2日間の学術集会は、若年の妊娠、妊娠初期の虐待、消えた子ども、貧困、里親、シェルターなど、多方面の学びがあった。充実した時間だったことを報告したいと思う。

キャプネット・みやぎ15周年記念 杉山 春氏講演会
 「虐待と貧困～大阪二児置去死事件に学ぶ～」
参加者アンケートの結果をご報告します



性別	男	女	計
数(人)	6	67	73

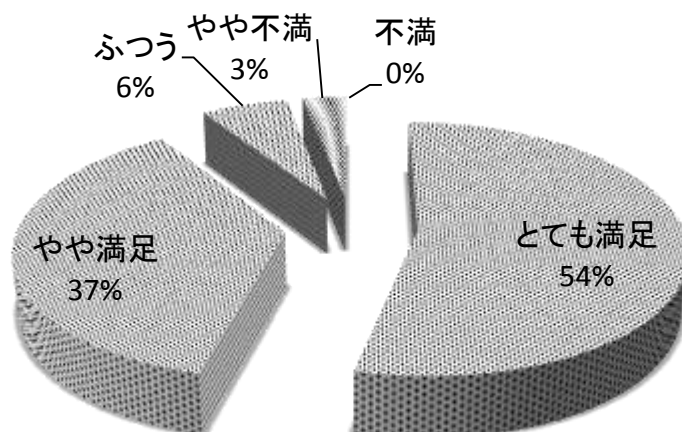
居住地	市内	県内	県外	計
数(人)	53	20	0	73

情報経路	チラシ	知人友人	新聞	TV/ラジオ	その他
数(人)	17	24	20	0	5

動機	講師	テーマ	当事者	勉強のため	その他
数(人)	11	51	1	27	5

満足度	とても満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
数(人)	35	24	4	2	0

講演の満足度



【感想自由表記】

- 仕事に生きる学びがありました。
- おせっかいでも、子どもが泣いたり叫んだりしている時は積極的に通報すべきと思う。
- スクールカウンセラーです。この問題を抱えた家庭が多くなり、多くのことを学びました。

- 行政の一線を踏み込んだ支援がもう少し必要だと思います。電話や相談できる場所に行けない人への支援の重要さを改めて実感しました。
- もっと聴きたかった、質問もしたかった。遠方から来て良かったです。
- 最後の質問のやり取りで、とてもいい指針を頂きました。
- すごく、よくわかりました。
- 虐待する母の背景をしれて良かったです。
- アレ？と思う判断が非常に大切だと思った。
- 質疑応答が参考になりました。
- 背景、現状だけでなく、今後の課題が具体的に提示してあるため、その中で私自身の仕事の中でできることを考えたいと思いました。
- 社会の無関心の態勢、行政の巧みな言い訳によりいっそうの疑念。支援の大切さを痛感。貧困のみが原因か？
- 事件の母親を肯定してはいけないのでしょうか。正直気持ちは分かる、と思いました。
- 杉山さんは私のことをたくさん語ってくれました。芽衣さんと私は重なる部分がたくさんあり、何度も涙が込み上げました。ありがとうございます。
- 今日の内容は社会的な問題です。今の社会の情勢をきちんととらえていく力、想像力をもっともっとセンサーを働かせていかねばと思いました。ありがとうございます。
- 大変重い課題を与えられました。80年から6人を育てています。若いママ達によりそいたいと強く思う気持ち、もう一度初心に戻ります。
- 今回の講演会がなかったら、どうしてこの事件が起きたのか正しい知識を学べなかったと思いました。ありがとうございました。
- ニュースで報道される虐待死などの背景には、深い話があるのだと感じました。孤立している子育ては、仙台では、(転勤族も多いため)多いと思います。地域みんなでできる子育ての輪がもっと広がればなと思いました。
- 質問に対する先生の答えに拍手！！
- 母親という役割の概念が社会にどのように伝えていくべきなのか、助け合うということができれば母親の気持ちも楽になるし、不安を取り除くことができるのか、すごく関心を持ちました。
- 虐待の裏にあるもの、とても深い話で考えさせられました。
- 内容の濃い、充実した講演でした。虐待について、母子家庭について考えさせられました。
- 事件の内容を知らなかったなので、当人だけが悪いと思っていたが、環境が違っていればと思いました。
- 資料がまとまっていたのでよかったですと思います。いろいろ現場の声を積み重ねて聴かれていたので、とても重みのあることばかりでした。
- 全くうなずけるないようでした。他にも発達障害やその類の講演会に出席していますが、いろいろ関連しているものを思いました。
- 幼児期に受けた体験というのが、将来の子育てにかなり影響があるということを感じました。
- 虐待は、親や子どもが悪いというわけではないということ学びました。虐待を予防するには、地域と住民のつながりが大切だと思ったのですが、現在ではその繋がりがなくなっているので、どうすれば繋がりが持てるのかを疑問に持ちました。
- 深い分析に感銘しました。

- 代表の話が長すぎる。自己紹介長過ぎ。子どもを殺さないでほしい。自分の子ではないのだから、神からのプレゼントだから。
- フリーライターのお仕事、本当にお疲れさまです。益々のご活躍を祈っております。世の中、知らないことばかりのお話でした。肝に銘じます。
- 最近、虐待や DV に興味があり、大学でもそのテーマについて勉強しようと考えていたため、とても勉強になりました。
- ありがとうございました。
- 社会全体で取組まなければ行けない問題だと、とても感じた。
- 事件の概要を詳しく知ることができた。
- 複雑な問題なので、もっと時間をかけて聴きたかった。
- とてもよいお話を伺えました。ありがとうございました。
- 虐待を「ひどい親と認定するのではなく、支援が必要な親子」ととらえる言葉を聴いて、虐待というものの見方が変わりました。
- 紹介する方はあらかじめ「本」の下読みをしてほしい。ポイントが違う内容で紹介するのは失礼で腹立たしかった。
- 自分の価値観のみにとらわれては行けないと強く感じました。大変参考になりました。
- 二人目の質問を聴いてこの人は何を聴いていたのかと腹が立ってきましたが、その答えの中に杉山さんが私たちに伝えたかったことがはっきり伝わってきて、今日この場にいたことをよかったと思っています。私も想像が働くように自分を育てていきたいと思います。
- 講演の後半にだんだん熱が入り、内容も濃い話が聞けました。ありがとうございました。
- 内容がルポ的なので理解しやすい。
- 武豊町の事件について良く調べたいと思いました。
- 事例の具体的背景から何が必要で、今後どのような対応が家庭に必要なかを学ばせていただきました。ありがとうございました。
- 代表の方のマイクの音声の高低に差があり、お話が聴きづらかったのでマイクの使い方を勉強して頂けると良いかと思いました。
- 最初の説明した方がマイクが遠かったりして話が聞き取れない部分が多かった。
- ありがとうございました
- 子どもが NO と言える環境と、子どもが声にできないメッセージに気付けるように自分の五感を活用できるようにしたい。
- 大変勉強になりました
- 講話を聴くことができて良かったです。とても勉強になりました。
- 虐待する母親（家庭）の背景には日本の高度成長に伴って起きたものなんだと感じました。個人だけの問題ではない、時代のせいなんではなかろうか……。大局的な目線が必要ですね。
- OSOS を出せないお母さんを救える支援や制度が早くできて、楽しく子育てできる社会になってほしいと思いました。
- 西澤氏の心理学的理論（考え）を基に事例を通して虐待と貧困について話されており、良かったと思います。

平成27年5月～12月 活動報告

CSP：コモンセンス・ペアレンティング
毎週木曜日母親グループ

- | | | | |
|----|------------------------------------|-----|------------------------------------|
| 5月 | 9日 相談員定例会 | 10月 | 2日～11月13日（6日間） |
| | 1日 のびすく泉中央 ホームビジター
養成講座 講師派遣 | | 第11回CSP講座 |
| | 23日 運営委員会 | | 3日 第18期電話相談員養成講座① |
| | 26日・29日 多賀城市要保護児童対策
地域協議会 | | 3日 「きみはいい子」上映試写会 |
| 6月 | 5日～7月10日（6日間） | | 10日 相談員定例会 |
| | 第10回CSP講座 | | 15日 のびすく泉中央 がんばらない
子育て 講師派遣 |
| | 9日 仙台市子供相談支援センター研修
講師派遣 | | 17日 第18期電話相談員養成講座
②・③ |
| | 11日 「みやぎ子ども・子育て県民条例案」
パブリックコメント | | 20日 太白区要保護児童対策地域協議
会 実務者会議 |
| | 11日 子育て応援団ひよこホームビジ
ター養成講座 講師派遣 | | 23日 青葉区要保護児童対策地域協議
会 実務者会議 |
| | 12日 水の森市民センター子育て支援企
画 講師派遣 | | 23日 宮城野区要保護児童対策地域協議
会 実務者会議 |
| | 13日 第16期キャプネット・みやぎ総会
記念講演会 | | 24日 第18期電話相談員養成講座
④・⑤ |
| | 19日 若林区要保護児童に係るケース検
討会議 | | 27日 富谷町要保護児童対策地域協議
会 実務者会議 |
| | 21日 事務局移転引越 | | 28日 若林区要保護児童対策地域協議
会 実務者会議 |
| | 23日 若林区要保護児童対策地域協議
会 実務者会議 | 11月 | 5日 泉区要保護児童対策地域協議
会 実務者会議 |
| | 26日 青葉区要保護児童対策地域協議
会 実務者会議 | | 7日 ロージーベル 関係機関団体連絡
会議 |
| | 29日 太白区要保護児童対策地域協議
会 実務者会議 | | 11日 宮城県教育委員長意見交換 |
| | 30日 ホームスタート泉 運営委員会 | | 13日 榴ヶ岡市民センター「みんなちが
っていい」講師派遣 |
| 7月 | 3日 せんだんの杜保育園ホームスター
ト養成講座 講師派遣 | | 13日 せんだい子育て支援者ネットワ
ーク交流会 |
| | 11日 相談員定例会 | | 14日 相談員定例会／運営委員会 |
| | 17日 富谷町要保護児童対策地域協議
会 実務者会議 | | 20日 泉区子育て支援関係機関連絡
会 研修 講師派遣 |
| 8月 | 8日 相談員定例会／運営委員会 | | 20日 日本子どもの虐待防止学会
第21回学術集会にいがた大会 |
| 9月 | 12日 相談員定例会 | | 21日 同 |
| | 4日 婦人保護事業関係機関ネットワ
ーク連絡会議 | | 23日 県北児童虐待防止シンポジウム |
| | 29日 若林区児童虐待専門的助言会
議 | 12月 | 5日 第18期電話相談員養成専門講座
①・② |
| | 29日・30日 多賀城市要保護児童対策
地域協議会 | | 12日 相談員定例会／運営委員会 |
| | 30日 個別ケース面接 | | 15日 せんだんの杜保育園職員研修
講師派遣 |

キャプネット・みやぎ
今後のお知らせ

第12回コモンセンスペアレンティング～楽になりたい子育て～

10時～12時 6セッションで一つのプログラムです。

日 程	内 容	場 所
2016年 1/22(金)	① わかりやすいコミュニケーション (具体的に表現する方法を身につける)	第3研修室
1/29(金)	② 良い結果、悪い結果 (子どものよい行動を増やし、悪い行動を減らす方法を身につける)	創作室
2/6(土)	③ 効果的なほめ方 (効果的にほめる方法を身につける)	第3研修室
2/12(金)	④ 予防的教育法 (前もって、子どもに言って聞かせる方法を身につける)	第1研修室
2/20(土)	⑤ 問題行動を正す教育法 (問題行動に介入する方法を身につける)	創作室
3/4(金)	⑥ 自分自身をコントロールする教育法 (親子の緊張が高まる場面での対処方法を身につける)	第4研修室

場 所：福祉プラザ

対 象：子どもとの関係に自信を持ちたいお母様、お父様、どなたでも

講 師：キャプネットみやぎ CSP トレーナー

定 員：10名程度 定員になり次第締め切り

託 児：1回1名につき500円 場所：3階託児室

生後6か月以上7歳未満 予約が必要です

定員5名 1月15日(金)締め切り

兄弟姉妹2名の場合は1回1名400円です

料 金： 2800円 (テキスト代)

主 催：キャプネットみやぎ

申込み：裏面申込み用紙にご記入の上FAX, または電話、
Eメール zimukyoku@capnetmiyagi.org
(件名に CSPと明記願います)



会員更新 ご寄附 ありがとうございます。

平成27年10月～12月

順不同 敬称略

<個人会員>

墨井豊子 齋藤和之 兵藤文 高橋禎子 及川千恵子 高橋晃子 関根ふじ子 塚本二郎
山内礼子 倉澤良太郎 菊池陽子 大庭さちゑ 穂積雅美 平櫻晶子 須藤真由美
西澤晴代 鈴木郁代 荒井美佐子 三星容子 佐々木房江 鈴木忠司 山本蒔子 原容子
J.F.モリス 大沼昭 町田晶子 古久保和子 我妻要子 我妻恵 我妻健太 佐藤裕子
堺武男 阿部郁夫

<フラワー会員>

岩井紘子 小田嶋礼子 佐藤洋子 石島文香 村松敦子 吉田淳子 鈴木とき子
田澤二三代 長谷川桂子

<団体>

ないとうクリニック複合サービスセンター 保育所新田こぼと園

NPO 法人チャイルドラインみやぎ

<特別>

板垣努 林昌院佐藤知妙 善積則子 大沼セツ子

<寄付>

三浦淳子 仙台コココーラ・ボトリング株式会社仙台第一支店 佐藤洋子 齋藤智子
志賀野宏 吉田淳子



子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ
〒980-0812 宮城県仙台市青葉区片平 1-5-20-5F
半澤・村松法律事務所内
TEL/FAX 022-265-8867
mail zimukyoku@capnetmiyagi.org
URL <http://capnetmiyagi.org>